

PLAZA IMS



ITABASHI MEDICAL SYSTEM

2019/4月
Vol.7

プラザイムス イムス札幌消化器中央総合病院

「プラザイムス」は、患者様、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

VAD（血管内留置デバイス）センター
患者様の「人生・生活」を第一に



CONTENTS

特集（消化器内科）

・ ・ ・ VADセンター（血管内留置デバイスセンター）

部署紹介

・ ・ ・ 放射線科の紹介

外来診療予定表

平成31年4月時点

	診療科	月	火	水	木	金	土
午前 受付時間 8:30～11:30	消化器内科	○	○	○	○	○	○
	(VAD外来)	○					
	循環器内科		○			○	
	呼吸器内科	○	○	○	○	○(受付終了11:00)	
	糖尿病内科	○				○	
	化学療法	○	○	○	○	○	
	泌尿器科		○新患・予約外は 10:30受付終了				○(第1・3週)
	外科	○	○	○	○	○(乳腺/甲状腺)	○
	肛門外科	○		○			○
	整形外科	○	○		○	○	○
	脳神経外科		○	○		○	
	手外科(完全予約制)		○			○	
形成外科		○			○		
リンパ浮腫外科外来 (完全予約制)		○			○		
皮膚科		○		○	○	○	
午後 受付時間 13:00～16:30	消化器内科	○	○	○	○	○	
	(VAD外来)		○				
	循環器内科		○(※1隔週)		○		
	呼吸器内科	○	○	○	○		
	糖尿病内科				○		
	泌尿器科				○		
	外科	○(乳腺/甲状腺) (第1,2,4,5週)	○	○	○	○	
	肛門外科	○(第1,2,4,5週)		○			
	整形外科	○	○		○	○	
脳神経外科	○	○もの忘れ(認知症)外来 完全予約制					
皮膚科		○	○				

*1 火曜日午後の循環器内科外来は隔週のため、事前にご連絡ください。

インフォメーション

CVポート医療セミナー

2/23(土)TKP札幌駅カンファレンスセンターにて「第4回CVポータル地域医療セミナー」が開催されました。4年前より当院のVADセンター長 消化器内科医 岸 宗佑医師を中心に毎年開催しており、札幌市内はもとより砂川市など、北海道の広い地域から100名を超える多数の方にご来場いただきました。



IMSグループからのお知らせ

病院・介護施設選びに困ったら
二次検査(再検査・精密検査)の病院選びに困ったら
イムス総合サービスセンター(GSセンター)へ！



STEP 1 **相談** GSセンターにお電話かHPのメールフォームでご相談を！
相談窓口専任スタッフがみなさまのお悩みをお伺いします。

STEP 2
情報提供

IMSグループ医療機関の選定 医療機関・制度などの情報提供。GSセンターで可能なコーディネート内容の紹介など

STEP 3
受診決定

ご希望とマッチングした際、IMSグループ医療機関へ受診決定！
【外来受診】受診希望施設へ受診日・時間（予約含む）・
対象者さま基本情報等の連絡
【入院（所・居）・転院】希望施設の医療福祉相談室担当
者を紹介

FREE 0800-800-1632

※「050」からはじまるIP電話および国際電話からはご利用
できません。
受付時間／平日 8:30～17:30 土曜日 8:30～12:30
(日祝・年末年始休み)

イムス総合サービスセンター
http://www.ims.ar.jp/ascenter/

アクセス — アクセス良好
便利・快適

札幌駅よりJRで6分・琴似駅より徒歩3分



電車・地下鉄をご利用の場合

JR函館本線「琴似駅」徒歩3分
JR学園都市線「八軒駅」徒歩15分
地下鉄東西線「琴似駅」2番出口より徒歩15分

バスをご利用の場合

(琴46) (琴40)系統「八軒2条1丁目」バス停下車 徒歩1分
(52)系統「JR琴似駅」バス停下車 徒歩3分

お車をご利用の場合

当院裏側の併設駐車場(無料)をご利用ください

診療受付時間 午前 8:30 ~ 11:30

午後 13:00 ~ 16:30

休診日 土曜午後、日曜、祝日、年末年始

IMS(イムス)グループ 医療法人社団 明生会
イムス札幌消化器中央総合病院

〒063-0842札幌市西区八軒2条西1丁目1-1
TEL:011-611-1391 FAX:011-621-1100

患者様の「人生・生活」を第一に V A D（血管内留置デバイス）センター

現在、血管内留置デバイス（vascular access device: V A D：末梢ルート、 P I C C（末梢挿入型 C V カテーテル）、 C V カテーテル、 C V ポート）は日々の診療において、なくてはならない医療デバイスとなっております。当施設では、消化器内科医である岸宗佑医師をセンター長として、こうしたあらゆる V A D を専門的に扱う「 V A D センター」を開設するに至りました。

V A D センター

近年増加の一途をたどるがん患者様に対する安全な化学療法（抗がん剤投与）の目的のため、そして、長期の点滴治療を余儀なくされる患者様のために、 C V ポートは重要な点滴薬剤投与のためのデバイスとして使用されています。この度、札幌地域にお住まいの患者様だけでなく、北海道内、道外問わず、 V A D（血管内留置デバイス）でお困りの全ての患者様のために、あらゆる V A D を専門的に扱う「 V A D センター」として開設致しました。当センターでは、 C V ポートや P I C C が必要となられた患者様の生活様式や希望をお聞きし、患者様の「人生・生活」を第一とした処置を心がけております。

C V ポートとは

C V ポートは、中心静脈カテーテルの一種で、正式には皮下埋め込み型ポートといわれるものです。その名前のとおり、皮膚の下に埋め込んで薬剤を投与するために使用します。

1 0 0 円硬貨程度の大きさの本体と薬剤を注入するチューブ（カテーテル）より構成されています。



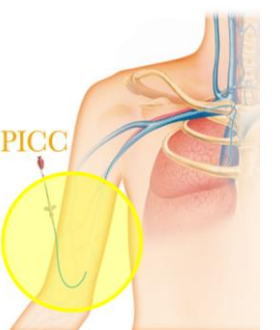
通常は、頸部や鎖骨の下の方の血管からカテーテルをいれ、右または左の胸の皮膚の下に埋め込みますが、上腕に埋め込む新しい方法を考案し、患者様のご希望を第一に治療しております。小手術であり局部麻酔で数分間での手術で行うことができます。



P I C C とは

P I C C（ピック）は、腕から挿入する中心静脈カテーテルです。他の中心静脈カテーテルと比較して、腕から比較的簡単に挿入でき、挿入後の感染などのリスクも少ないのが特徴です。

また管理方法によっても長期間にわたって使用できるカテーテルです。



患者さまへ

これまで頻用されてきた中心静脈栄養（ TPN: total parentai nutrition）だけでなく、近年栄養管理法の一つとして静脈栄養を併用した栄養管理（ SPN: supplemental parentai nutrition）が注目されておりますが、感染リスクが低い血管内留置デバイス（ V A D : P I C C や C V ポート）を選択する必要があります。当センターでは、「食べるための静脈栄養」として「食べるための C V ポート」、「食べるための P I C C」の活動を行っております。

安全な静脈栄養を行いながら、嚥下内視鏡を含めた嚥下評価を併用し、摂食嚥下リハビリを行うことにも力を入れております。治療やリハビリが長期となる場合には、近隣の長期入院が可能な病院、施設と連携して治療継続を行っています。また、他院にて誤嚥性肺炎などの治療のため、治療開始にあたり、 P I C C や C V ポートが必要な場合には、そうしたカテーテル処置だけでも対応しております。医療安全の上でも、中心静脈カテーテルについては、これまで多用されてきた C V カテーテルではなく、 P I C C

による代替が求められておりますが、あらゆる血管内留置デバイス（ V A D ）を 1 施設のみで対応することは厳しいとの声も頂き、今回、血管内留置デバイス（ V A D ）の専門センターとして開設するに至りました。

患者様に最適な点滴を

末梢ルートが取りにくいということでお困りの方から、長期 C V カテーテル留置によるカテーテル感染でお困りである患者様など、あらゆるご病気で治療が必要な患者様に最適な点滴をお届けしたいと思っております。

すでに前胸部に埋設された C V ポートに満足いかず、上腕への埋設を希望される患者様についても対応しており、化学療法が必要になったがん患者様から、点滴が必要となるあらゆる患者様まで、カテーテルに関するどんな希望でも構いませんので、まずはお気軽にご連絡ください。

部署紹介【放射線科】

私たち放射線科は、放射線科医 1 名、診療放射線技師 1 1 名の計 1 2 名で、 X 線や磁石を用いた画像診断・撮影の全般にわたる仕事をしています。私たちの仕事は患者さんの治療方針を決めるために重要となる画像を撮影・診断し、主治医へ伝えることが主な目的です。放射線科医は、画像診断のエキスパートとして画像についての専門的な情報を主治医へ提供し、診療放射線技師は様々な画像検査機器の特性を理解し、撮影した画像を放射線科医・主治医へ提供します。 CT や MRI などの診断装置は著しい進歩を遂げ画像検査で分かることが増えてきました。

